

奥森吉に観光シーズン到来



▲今シーズンの運航が始まった遊覧船「森吉丸」から、周囲の景色を楽しむ

● 太平湖湖水開き

奥森吉・太平湖の湖水開きが6月1日に行われ、県内外から訪れた観光客が遊覧船に乗って新緑映える湖の景色を満喫しました。

運航に先立ち、太平湖グリーンハウスで行われた神事では、遊覧船を運航するマタギの里観光開発株式会社（鈴木謙一代表取締役）の職員や関係者、観光客など約20人が参加し、今シーズンの無事故を祈願しました。

この後、観光客は第一便の「森吉丸」に乗船。船上から鳥のさえずりを聞きながら、新緑の木々に囲まれた湖と残雪広がる森吉山の眺めを楽しみました。遊覧船は、10月の紅葉シーズンまで毎日7便が運航され、観光客を秘境小又峡へとご案内します。

ふるさと談議に花を咲かせて



▲各テーブルでは、久しぶりの再会を喜ぶ合う光景が広がりました

● 第27回東京圏あに会

第27回東京圏あに会（佐藤正成会長）の総会・懇親会が5月26日、東京都台東区の「オーラム」で開かれ、会員や阿仁地区からの参加者など、約180人が集い、ふるさと阿仁を懐かしむ話で盛り上がりました。

懇親会では、馬肉の煮つけなどの懐かしい味を堪能し、北秋田市ゆかりの歌手による多彩なステージを楽しみながら、ふるさと談議に花を咲かせていました。

また、秋田内陸線の紹介や市の観光PRが行われたほか、会場内の特産品販売コーナーには、阿仁から直送された採れたてのミズやシドケ、アイコ等が並べられ、郷土の味を求める会員たちには好評を博していました。

犠牲から30年、教訓を胸に刻む



▲慰霊碑に献花し、改めて命の尊さをかみしめました

● 合川小学校慰霊祭

昭和58年の日本海中部地震による津波で犠牲になった旧合川南小学校児童13人の30回目となる慰霊祭が5月24日、旧合川南小学校の殉難の碑前で行われ、合川小学校（三浦栄一校長、児童数66人）の全校児童と教職員らが犠牲者の冥福を祈りました。

慰霊祭では、参加者全員で黙祷をした後、三浦校長が「遙かな未来に向かつて子どもたちが光り輝けるよう、これからも見守ってください」と慰霊の言葉を述べました。また、6年生の伊藤那穂さんが「皆さんの分まで勉強や運動を精一杯頑張ります」と慰霊碑に話しかけました。

この後、児童の代表らが慰霊碑に献花し、教訓を胸に刻みました。

現代詩に触れる旅楽しむ



▲ギター演奏に合わせて、自作詩を朗読する参加者

● 第29回国民文化祭プレイベント

第29回国民文化祭・あきた2014のプレイベント「北の風土・詩作の旅詩の小径」文学散歩」が6月9日、県立北欧の杜公園などを会場に開かれ、参加者が自作詩を披露しながら自然と文化に触れる旅を楽しみました。

この日は、市内外の現代詩愛好家など24人が参加。北欧の杜公園では、参加者一人一人が作品に込めた思いやエピソードを紹介した後、ギター演奏をバックに自作詩を朗読しました。

この後、元合川町長で詩人の島山義郎氏の詩碑と浜辺の歌音楽館を訪問し、最後に5人の参加者が即興詩を披露。参加者は、メモをとったり目を閉じてじっくり聞き入ったりしながら創作意欲を高めていました。

女性の足跡を後世に



▲約40人が出席し、これまでの足跡を振り返りながら30年の節目を祝いました

● 鷹巣女性史研究会創立30年記念祝賀会

鷹巣女性史研究会（中嶋喜代会長、会員47人）の創立30年記念祝賀会が、5月25日、市中央公民館で開かれ、同研究会の会員や関係者約40人が出席して節目を祝いました。

同研究会は、郷土の女性史を学習及び研究することを目的として昭和59年に発足。研究の成果を後世に残そうと、これまで「鷹巣町婦人会史」「鷹巣の風土に生きる」「明日を拓（ひら）く」などの本を発刊しています。

祝賀会では、長きにわたり研究会活動に尽力された方々に感謝状を贈呈したほか、元鷹巣町長の出川禮一氏による記念講演が行われました。また、冠婚葬祭などに食べるとされた伝統食の「晴食」が振る舞われ盛大に祝いました。

ダム湖の利活用促進策を探る



▲みちのくダム湖サミットでパネリストとして発表する津谷市長

● 第5回みちのくダム湖サミット

第5回みちのくダム湖サミットが5月23日、福島県三春町の「三春交流館まほら」で開かれ、基調講演や活動報告パネルディスカッションを通してダム湖の在り方を探りました。

同サミットは、国土交通省が東北で直轄管理するダムを、観光や学習などの交流の場として積極的に利活用するため開催しています。

森吉山ダムが平成25年3月に完成したことを受け、津谷市長が初めて出席。パネルディスカッションで津谷市長は、森吉四季美湖で開催された夏まつりや紅葉まつり、さらにダム広報館で喫茶店を運営している根森田生産組合の活動等を紹介しながら、現在抱えている課題とその対策について発表しました。